

# 城南中で郷土学習

## プロカメラマン楠本さん招き

講師のプロカメラマン、楠本弘児さん



新宮市立城南中学校（小淵伸二校長）は2年生82人を対象に22日、新宮在住のプロカメラマン、楠本弘児さんを招き、郷土学習「レンズを通して見た郷土の真実」と題し

て講演を行った。

紀伊山地の霊場と参詣道をテーマに熊野古道や高野山の写真を映し、自然を紹介。気候や歴史なども合わせて説明すると、生徒らはメモを取りながら聞いていた。

「ウバメガシ」は紀州備長炭の材料、「オオシマザクラ」は温暖多湿のため、岩の上にも育つことを話し、那智の滝で1月に行われる寒行、高野山の金剛三昧院のシャクナゲなど芸術的な写真を

数多くスクリーンに映した。最後に那智山から撮った富士山を紹介し、「最も遠いところから見た富士山です」と話すと生徒から「そのときの気持ちを教えてください」と質問。楠本さんは「レンズを通すとわかりやすく、半信半疑だったが、5日後に確認がとれ、報道で流されたときに感動した」と話した。

楠本さんは38年前から撮り続けており、15年ほど前にプロカメラマンに



郷土学習を受ける生徒ら  
＝新宮市立城南中学校

富士山を最遠から撮ったことで有名になり、熊野を撮るカメラマンの第一人者として活躍している。

情報  
あらかると